



## 〈研究主題〉

### 主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり ～教師による子どもの「見取り」に焦点を当てて～

今年度は、各学部の研究対象となる学習グループから児童生徒1名を抽出し、教師が多面的・多角的な視点から、多様な手段で児童生徒の学びを見取ります。見取ったそれぞれの解釈を教師間で共有して指導のあり方や授業づくり等へフィードバックし、児童生徒が主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくりを目指しています。今回は、中学部の全校授業研究会について紹介します。

## ● ● ● 中学部3年 生活単元学習 「SDGs9 ～広げようキャップ回収～」

### 授業者からの授業説明

7月に全校に向けてペットボトルキャップの回収を呼びかけた。本単元では、交流のある近隣のデイサービス「真心」へのキャップ回収の依頼に関する部分の授業である。

### 抽出生徒について

- ・本生徒はやる事が決まっていると自主的に取り組める。ただし「自分で考える」ことが難しい。
- ・自分から友達に話し掛けることが増えてきた。今までは「〇〇します」のみだったものが、「〇〇お願い」「〇〇だって」などと伝えられるようになってきた。
- ・悩み事や困り事はなかなか言えない。相手に伝える経験の少なさや不安があるのではないかと考えている。
- ・前回完成したポスターを見ると「やったー！うれしい」と話し、「家でも話題にした」と話していた。



### 授業研究会から

参観者は青色の付箋紙に「子どもの言動」(事実)、ピンクの付箋紙に「見取り」(解釈)の2枚の付箋紙を記入します。その2枚の付箋紙を使ってワークショップを行い、子どもの姿から「次時につながるキーワード」を導き出します。

|     |   |  |
|-----|---|--|
| 導入  | <p>きょろきょろと周りを見る</p> <p>参観者が多く、気持ち落ち着かない様子。不安なのではないか</p>   | <p>「伝わるようにするためのポイントは？」の発問に「見やすい」とすぐに答える</p> <p>自信がある。繰り返し確認してきており、理解できているのではないかと</p>   |
| 展開  | <p>「えーっと」、「どうしよう」などとつぶやく</p> <p>つぶやいていると先生が助けてくれると思っているのではないかと</p> <p>何度も写真を撮り直していた</p> <p>これでいいの？という不安から何枚も撮り直しているのではないかと</p> <p>自分が納得いく写真を撮りたいと思っているのではないかと</p> <p>ポスターをよりよくしたいという気持ちがあるのではないかと</p> | <p>写真を撮るとき、友達の撮影方法を見てまねをする</p> <p>写真撮影するとき、友達の撮影方法を見てまねをする</p> <p>そうやればいいのかとヒントを得て、まねしたのではないかと</p> <p>どう撮影したらいいかわからず、自信がなくて見て真似をしたのではないかと</p> <p>友達とのやりとりより教師とのやりとりが多い</p> <p>先生が友達より近い存在。話しやすいのではないかと</p> <p>具体的に相談することや、やりとりすることがないのではないかと</p> |
| まとめ | <p>「自分のベストを出せた」という表現を教師と掘り下げ、「全部積んで写真を撮ることを頑張った」と話す</p> <p>積んで山にしたことで「分かりやすい」ものになったということが理解できたのではないかと</p>   | <p>「多く見えるように山のようにして撮影した」</p> <p>グループでの振り返りの際、友達から「いいね」があったから自信を持てたのではないかと</p>  |

授業場面における生徒の姿を見取っても、先生方によって様々な解釈があった。それぞれの解釈を伝え合い、聞き合いながら参観者全員で「次につながるキーワード」を導き出し、授業者へフィードバックした。

### 授業研究会から「次につながるキーワード」

- ・「分かるめあて」の提示
- ・経験から考えを深めたり導き出したりする選択肢の提示や思考ツールの活用
- ・意図的に協力（話し合う）する場面設定や、相談内容の精選
- ・生徒間を「つなぐ」支援
- ・前時の活動を生かした目標設定や活動の設定
- ・学習したこと、経験したことを生かす力



### 【指導助言】 秋田県総合教育センター支援班 主任指導主事 牧野 幸枝 氏

#### ○授業全体について

- ・本時では「相手に伝わるように制作する」、「友達と協力する」の2つのめあてがあり、本時の頑張りどころが見えづらくなっていた。全体で確認すること、グループや個別で確認することを使い分けるとよい。

#### ○抽出生徒について

- ・話し合いの「型」は提示されていたが、まずは、自分の考えがまとまっていないと使えない。伝えたいことを決めたり、自分の考えを明確にさせたりするための手立てが重要。
- ・授業の中で一人で考えたり、友達同士で考えさせたりする場面と、教師が話し合いに入って仲介する場面など使い分けるとよい。本時は教師が入って3人で話し合うことが自然だった。その中で伝える力や必要感、自信を付けてほしい。

#### ○今年度の研究について

テーマは「見取りと解釈」であるが、解釈によっては手立てがより具体的になってくる。解釈の精度を高めるためには日常的に生徒と積極的に関わり、見ていくことが必要になる。普段からアンテナを張って、褒める、取り上げる、あるいは授業に生かすことができるように、想像力と瞬発力を大事にして見取りの力を高めてほしい。

### 授業研究会後の授業から（授業へのフィードバック）

○めあてを「おじいさん、おばあさんにキャップ集めを依頼する」とし、具体的に頑張ることはグループに分かれてから確認した。

→おじいさん、おばあさんに依頼するために頑張る意識が明確になった。

→導入の時間が短くなり、制作や話し合いの時間が増えた。

○キャップを洗う写真を撮る際に、「相談する」→「2人でやってみる」→「相談する」という流れにした。始めは教師も含めた3人で話し合いをし、やりたいことを明確にしてから2人で話し合う場面、1人で考える場面を増やしていった。

→やりたいこと（キャップがよく見えるように洗っている場面を撮影する）が明確になり「キャップのラベルをカメラに向けた方がいい」、「キャップを指先で持つ方がよく見える」など、具体的な提案を出し合うことができた。また、撮影しながら「キャップの向きを変えてみよう」、「水の勢が強すぎると見えない」など、自然にやりとりをしながら納得のいく写真を撮影することができた。

